

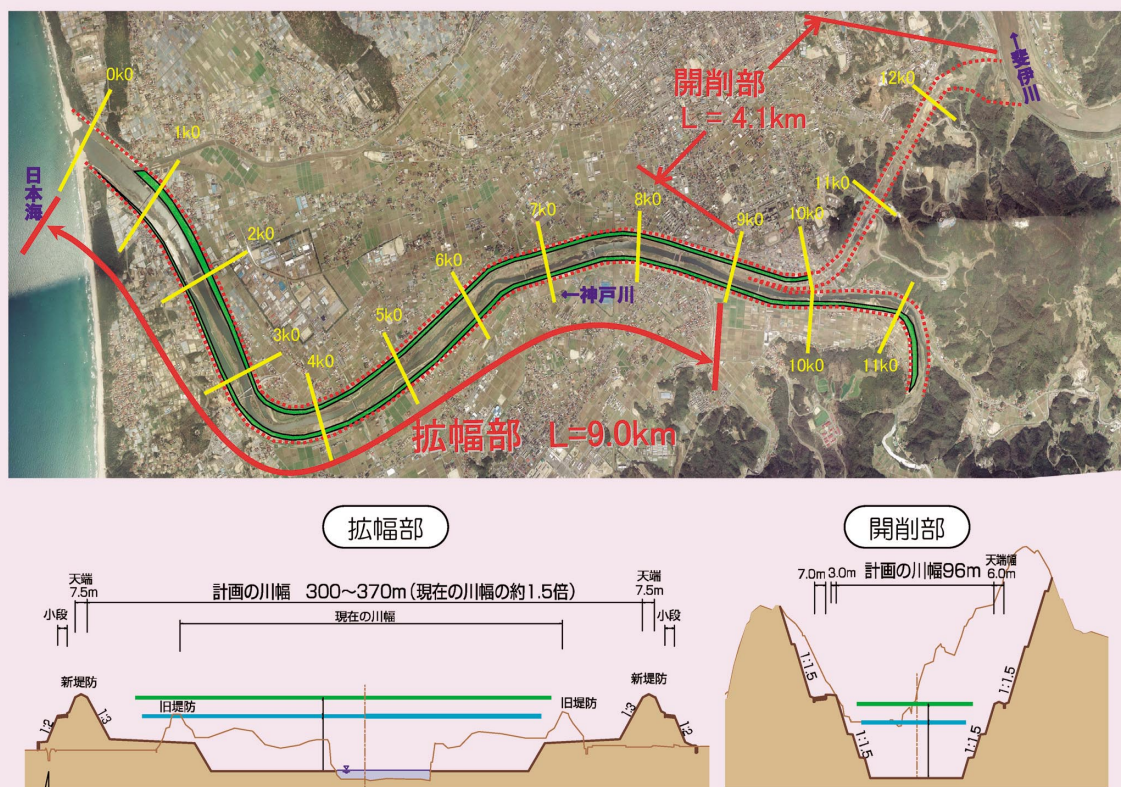


図-3 斐伊川放水路の平面と横断

られます。開削部は、斐伊川と斐伊川から分流した洪水を流す神戸川の間をつなぐ幅約100mの水路で、出雲市街地南部の丘陵地を切り開き約4kmにわたって新しい水路を掘削してつくり出します。拡幅部は、開削部からの洪水を合流させることとなる神戸川下流部の川幅を洪水が安全に流れるよう約1.5倍の300~370mに広げ放水路とする区間で、河口まで延長約9kmにわたって新たな堤防を築きます(図-3)。

この事業に必要な用地や家屋移転は、開削部、拡幅部合わせて約322ha、437戸と大規模にわたり、計画当初は地域でさまざまな意見がありましたが、昭和57年に地元出雲市が計画に同意され、以降沿川の方々の多大なご協力をいただきながら事業が進められてきました。

主な工事内容は、築堤に要する土量約400万 m^3 、掘削土量約1,600万 m^3 、橋梁架替・新設25橋、取水堰改築1基、そのほか築堤に合わせて水門、樋門等の新設も行います。大量に発生する掘削残土は、開削部南側の島根県所有の三つの谷を使って処理を行っています。

5. 工事の進捗状況

平成6年5月斐伊川放水路事業起工式が行われ、以来本格的な工事が開始されました。平成21年度末までに築堤は約9割、掘削も約8割と工事は進捗し、構造物では取水堰の改築を完了し、橋梁の改築、新設もほぼ完了しています。

工事の進捗とともに、斐伊川の洪水を受け入れることとなる神戸川も、平成18年8月からは斐伊川水系の一級河川になりました。平成21年2月からは最後の大規模構造物である分流堰の工事に着手しています(写真-4)。

(1) 拡幅部

神戸川の川幅を広げる拡幅部では、新たな堤防の築堤と旧堤防の撤去がほぼ完了に近づき、低水部の掘削と護岸工事を各所で進めています。山陰の大動脈である国道9号とJR山陰本線、農業用取水堰の神戸堰の三つの構造物が連続し、拡幅が



写真-4 工事着手前と現在の斐伊川放水路分流部付近から放水路を望む



写真-5 広がった拡幅部の状況



写真-6 専用道を走る大型ダンプ

遅れていた地区も構造物の改築工事を終え、大きな構造物の工事が完了し、残っている掘削、護岸、開削部との合流部分、支川部などの工事を進めています（写真-5）。

放水路事業では大量の土を残土処理場へ運搬するため、一般道を使用せず事業用地内全川にわたって工事用道路を設置し、大型ダンプにより土砂運搬を行っています。最盛期には全国から約70台もの大型ダンプが投入され土砂運搬を行っていました。神戸川を渡る部分では時間約900m³を運べるベルトコンベアを設置して土を渡河させていましたが、掘削工事の進展により平成21年度で役割を終え解体しました（写真-6）。

神戸川に新たにできる高水敷は、自治体や地域の方々の意見をいただき整備について調整を進めています。また、拡幅による新たな水際部は護岸上に覆土を行って植生の復元を図っています。

(2) 開削部

丘陵地を大規模に掘削する開削部では、約4kmに及ぶ新しい水路の姿が見えるようになってきました。掘削にあわせて護岸を施工しながら、ほぼ予定している河床付近まで掘削が進み、流下能力の確実な確保のためコンクリートによる河床保護工を施工しています。また、もともとあった道路を横切る形で水路ができるため、代替となる橋梁6橋も、すでに5橋が完成しました（写真-7）。

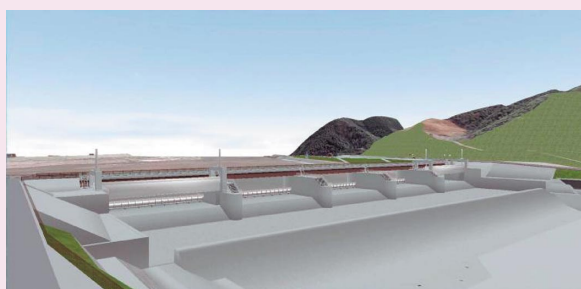
平成21年2月から着工した分流堰は斐伊川本川から洪水を分ける施設で、放水路の要となる施設です。堰長は約200m、鋼製起伏ゲート5門を起立させることにより常時は放水路へ水を流さず、洪水時にはゲートを倒すことによって洪水を分流させる構造です。計画の分流量を超えないよう流量を制御するため制水ゲート2門も備えていま



写真－7 掘削した開削部の状況
開削部の左側は残土処理場



写真－8 残土処理場法面の植樹



図－4 分流堰イメージ図

す。分流堰工事は平成23年度末の完成を目指し本体およびゲート、関連施設の整備を進めます(図－4)。

開削部に隣接する残土処理場の谷は、三つの谷のうち二つがほぼ予定の造成を終えています。残土により造成される大きな法面には、豊かな緑を再び取り戻そうと植樹を行っています。植樹には出雲地域の気候や風土の中で手間を掛けなくても強く生き続ける樹種を使い、地域の小学生や沿川の方々にもご協力をいただき、「千年の森づくり」と銘打った植樹会を毎年開催しています。また、残土処理場造成によりでき上がる広大な平地は、現在島根県などにより利用方法の検討が進められています(写真－8)。

6. おわりに

斐伊川放水路工事は、拡幅部の掘削、築堤、護岸の仕上げ、開削部の分流施設の建設、河床保護という最終段階に入ってきました。

平成18年7月、治水計画の契機となった昭和47年7月洪水以来の大洪水が島根県東部を襲い、斐伊川本川下流では計画高水位を超え、穴道湖の水位が上昇して松江市街地など沿岸で大きな被害が発生しました。神戸川でも放水路事業区間より上流では沿川で多くの浸水被害などが発生しましたが、拡幅の進んでいた放水路事業区間では大きな被害はなく、放水路事業による効果も現れてきました。

斐伊川・神戸川治水計画3点セットに対する斐伊川・神戸川沿川地域の方々の多大なご理解とご協力に支えられて進められている斐伊川放水路事業が、一刻も早く地域の方々の安全安心な暮らしのお役に立てるよう引き続き工事を進めて参ります。